

世界文化遺産 姫路城 中曲輪バタフライガーデン創造事業

－ 400年前の蝶の飛び交う城下の風景の再現を目指して －

実施担当者 姫路市立白鷺小中学校
主査 風見 智広



1 はじめに

姫路市立白鷺小中学校と兵庫県立姫路聴覚特別支援学校は、世界文化遺産（国宝）姫路城の中堀内側にあたる中曲輪（特別史跡内）にある。学校の周囲は中堀の石垣で囲まれ、また目の前には姫路城の凛とした姿を目にすることができる。

姫路市では市制100周年を迎えた平成元年4月に『市蝶 ジャコウアゲハ』と『市鳥 シラサギ』を制定した。これは姫路市でも都市化が進み自然環境が変化していく中、自然に関心をもって昆虫や鳥に親しみ、自然保護の意識を高め、培っていくために選定されたものである。

ジャコウアゲハは、そのサナギが「播州皿屋敷」のお菊の化身とされ、戦前には姫路城内やお菊神社で売られていたこともある。サナギの形が後ろ手に縛られたお菊の姿に似て、口紅を付けたような赤い斑点もある。

姫路城にはお菊が投げ入れられたとされる「お菊井戸」があり、まわりは石柵で囲まれ、上面は金網でおおわれている。戦前は手入れが行き届いていなかったために、井戸の周りに木々が茂り妖異な雰囲気であったらしい。それが皿屋敷伝説と結びつき、お菊虫の話になったようである。

また中国では、紀元前から絹糸で胸を他物にささえるアゲハチョウ科のサナギのことを、首をくくって自殺した女性の姿に見立て「縊女」とよんでいたらしい。

このような歴史的な逸話もあり、ジャコウアゲハと姫路市の関係には非常にロマンがある。

本校は国の特別史跡内のため、よく学校にあるような池を中心としたビオトープが無かった。児童生徒の学校生活の中で動植物の生態観察を通じて、生命の不思議さや環境問題を考える場が必要であった。

また姫路市の課題として、姫路城だけを訪れて帰られる観光客が多く、滞在型の観光地へ転換するための観光資源が不足しているという課題があった。

環境教育と地域活性化という2つの課題を解決するために学校ができる方法として、姫路城の南西部に、隣接する県立姫路聴覚特別支援学校と協働し、2校を核としたエリアを『姫路城中曲輪バタフライガーデン』と名付け、400年前の姫路城築城当時に蝶の飛び交っていた風景を再現し、持続可能な自然環境（SDGsの理念）を実践することで、地域に貢献することもできるのではないかと考えた。

2 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業への取り組み

2-1 姫路聴覚特別支援学校での実践

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校
教諭 宮本 伸彦

本校では、昨年度より、白鷺小中学校から声掛けしていただき、このバタフライガーデンのプロジェクトに参加させていただいている。昨年度は、白鷺小中学校よりいただいたウマノズクサを3年生が育てる取り組みを行なった。それを今年度の3年生が引き継ぎ、理科の「チョウを育てよう」の単元のチョウの成長の観察を、モンシロチョウとジャコウアゲハで行なった。

人懐っこいのか、ジャコウアゲハは人の近くによつてきたり、



人が近くにいっても産卵したりするので、児童が産卵する様子を見られる時もあり、頻繁に「先生、ジャコウアゲハがきてる。」と子どもたちから呼ばれることが多かった。生まれてきた幼虫を観察すると、「気持ち悪い」「こわい」などの声が上がったが、教師が率先して手にのせるなどしてかわいがると、「さわってみたい。」「気持ち悪いけどかわいいかも。」といった声上がるようになり、さわることは難しいがだんだん慣れていった。



さなぎになると、またその姿に驚き、別名の「お菊虫」の説明では、姫路城と関係があることがわかると、興味深く話を聞く児童が多くいた。だんだん色が変化していくことが観察しやすいように、虫かごに移動させて教室でいつでも見られるようにすると、「なんか動いてる。」「黒くなってる。」等、毎日のように報告してくれた。

そして、朝学校に来ると、大きく、黒い、美しいチョウに羽化していて、歓声があがった。観察したのち、3年生全員でカゴから放し、周りをひらひらと優雅に舞い、飛んでいく姿を笑顔で見送った。

理科の学習では、ジャコウアゲハの幼虫やさなぎの独特なフォルム、成虫の大きさ、美しさから、とても興味を持って学習に取り組むことができた。来年度以降の観察にも活用していきたいと考えている。

今年度は、生長したウマノズクサが4株しかなかったところに、たくさん産卵されたので、エサ不足に陥ってしまったことがあった。6月に寄贈されたプランターと土で植えた新たな苗が、ジャコウアゲハの飛来が落ち着いてきた9月下旬ごろから育ち始めたので、来年度のえさが増えると思われる。



子どもたちの身近に置くことで親しみやすいように、世話がしやすいようにと考えて教室のそばで育てた結果、多くの児童に興味関心を持たせることができた。しかし、チョウが舞う姿が見られるのは校内の一部だけであった。そこで、来年度からは徐々に学校全体に植栽し、ジャコウアゲハの飛来する場所を広げていくことで、どこからでもジャコウアゲハが飛んでいる姿を見られるようにしていくことを考えている。



2-2 白鷺小中学校での実践

姫路市立白鷺小中学校
教諭 竹内 哲宏 主査 風見 智広

①小学部3年生の事前学習（総合的な学習の時間）



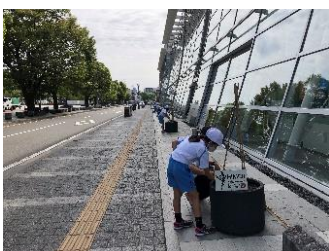
教室でジャコウアゲハの幼虫の生態を観察し、生態を調べました。コミュニティ・スクールコーディネーターの飯塚先生から地域の歴史や姫路城とジャコウアゲハの関係について学びました。

②中庭でのウマノズクサ育成基地づくり



中庭に PTA・地域ボランティアの協力を得て、食草のウマノズクサが全 100 基を植栽しました！

③中曲輪にある協働団体（全部で27団体）に食草の提供と植栽



3 まとめ

姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業を実施していく中で、まず校内や登下校路などの子どもたちの身近な場所に食草を配置することで、日常的に観察が出来るように考えた。さらに白鷺小中学校と姫路聴覚特別支援学校だけでなく、周辺の高等学校・私立学校・企業・団体・行政機関を巻き込み発展させることで、姫路城を中心とした大きなビオトープをイメージし、食草ポイントエリアの拡大を目指した。

早くも夏ごろには授業中に教室にジャコウアゲハが飛び込んでくるなど、植栽活動の成果が子どもたちの身近にあらわれてきた。

子どもたちの感想に、

- ・これからのねがいは、おしろのまわりや、姫路市全たいにとぼして、すてきな町できれいな町にしたい。
- ・ウマノズクサを植えてジャコウアゲハが飛ぶのが楽しみです。白鷺園の子も喜んでくれてよかったです。
- ・これからどんどんジャコウアゲハをとぼして、来年には毎日たくさんのジャコウアゲハがみれるようになってほしいです。
- ・うえるのはたいへんだったけど、楽しかったのでよかったです。これからどんどんそだっていくのが楽しみです。
- ・白鷺園と消防署と中央支所にジャコウアゲハがたくさんとぶことを願っています。
- ・もっとふやすためにポスターをはって、ちいきの人たちにもそだててほしいです。
- ・学校へ戻る途中でジャコウアゲハをみかけました。町ぜんたいにチョウがとぶのをみてみたいです。

など、児童の『自然や環境への興味関心を高め、理科好きの子どもを育てる。』だけでなく、『地域の文化・伝統の学習を通し、国やふるさとに愛着と誇りをもち、日本文化の継承・発展を担うと共に、それを表現し、伝えることのできる子どもを育てる活動』『地域の文化や地域について学ぶ中でその良さを見出し、発展させようとする人材の育成につながる活動』に繋げることができた。

地域と協働した取り組みのため、本校が中心となり全体の調整やフォローをすることがポイントだと考えている。そして地域の活動として根付き、持続可能となるように引き続き取り組んでいきたい。

謝 辞

『姫路城中曲輪バタフライガーデン』の取り組みは2018年から本格的に始めました。しかしながら必要な資材を用意するための、十分な予算がなく、事業のアイデアはあっても大きく展開することが困難でした。

今回、（公財）中谷医工計測振興財団様から科学教育振興【プログラム】助成に選んでいただきましたおかげで実施することが可能となりました。感謝申し上げます。

この取り組みが評価され、白鷺小中学校が（公財）博報堂教育財団より、『日本文化・ふるさと共創教育』『独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動』に関する領域の活動として高い評価を受け、第51回博報賞において『博報賞』を受賞することにもつながりました。さらに兵庫県からグリーンスクール表彰を受けました。

学校・PTA・地域が協働しながら、子どもたちが身近に豊かな自然を感じるような魅力的な環境を、次世代に残せるよう努めていきます。

参考文献

- 1) 「ジャコウアゲハ（お菊虫）と播州皿屋敷の民俗文化誌」
相坂耕作（著）赤松の郷昆虫文化課館（播磨昆虫民俗資料館）（編）姫路城下町街づくり協議会（発）

以上